

第23回「京都市ごみ収集業務評価推進会議」議事録

- 日 時 令和3年8月13日（金）
午後3時～午後4時30分
- 場 所 さすてな京都 広報室
- 出席者 （敬称略 五十音順）
- 委員 内海 万知子（市民公募委員）
" 岡村 公子（京都市地域女性連合会常任委員）
" 小川 正雄（京都市ごみ減量推進会議委員）
" 桂 千草（市民公募委員）
" 北村 勢津子（市民公募委員）
- 会長 中井 歩（京都産業大学法学部教授）
- 委員 花嶋 温子（大阪産業大学デザイン工学部准教授）
" 福井 智士（公認会計士）
- 事務局 京都市 環境政策局 循環型社会推進部 まち美化推進課
- 議事内容
- 1 本市におけるごみ収集業務の現状について（資料1）
 - 2 京都市の資源循環の取組（資料2）
 - 3 令和2年度のごみ量について（資料3）
 - 4 本市の主な取組状況（令和3年度）について（資料4）
 - 5 「京都市ごみ収集業務評価推進会議」における直営及び委託事業者の評価について（資料5）
 - 6 京都市のごみ収集業務に関するアンケート調査（資料6-1, 6-2, 6-3）

○開会

事務局： 本日の会議ですが，非公開情報を取り扱いませんので，公開で実施をさせていただきたいと思えます。併せて関係者席から写真撮影の申し出がございますので，これを許可したいと存じます。御異議ございませんか。

一 同： 異議なし。

事務局： それでは，以降の議事進行は中井会長からお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○本日の会議の目的等

会 長： 本会議は，最近の京都市の取組状況や，市民アンケート調査結果の御報告を伺って，意見を出し合うことで市民の皆様が満足する，されるような業務実現につないでいくことを目的としております。市民の代表の皆様の忌憚のない意見交換・質疑をしていただければと思えます。

それでは議題1から4について，報告事項になりますので，まとめて事務局から御説明いただき，その後で質疑に移りたいと思えます。次に議題5，6については議題ごとに事務局から説明を行い，その後で質疑に移りたいと思っております。それでは事務局からよろしくお願ひします。

事務局から資料の説明

会 長： ありがとうございます。

ただいま事務局から御説明いただいたそれぞれの議題に関連する資料1～資料4について，何か御意見・御質問等がありましたら，どうぞお願いいたします。

委 員： 資料1「本市におけるごみ収集業務の現状について」ですが，本市におけるごみ収集業務の現状について，令和3年度の委託化率が63%まで上昇し，今後，令和6年度に委託化率70%，令和9年度に委託化率75%を目指すということですが，最終的に何%までを目指すのでしょうか。また，委託化することによるメリット・デメリットはどういったものがあるのでしょうか。

事務局： 令和9年度以降，最終的に委託化率を何%まで目指すかについては，現時点で検討していません。

委託化のメリットは民間ならでは視点でのコスト削減を意識した取組みや，契約受注時の競争入札によるコスト削減にあると考えています。一方，デメリットとしては，競争入札による行き過ぎた価格競争が発生した場合，収集業務の質の低下を招く恐れが懸念されます。こうした事態が発生しないよう，委託事業者と業務の連携を深め，競争入札の運営・管理に気を付けています。

委員： 資料1「本市におけるごみ収集業務の現状について」ですが，直営と委託の業務分担はどのように行っていますか。地域で振り分けているのでしょうか，それともごみ種で振り分けているのでしょうか。

事務局： 直営・委託の業務分担については，各まち美化事務所にて地域で振分けを行っております。振分けに特に定義はなく，各まち美化事務所の業務を考慮し，委託事業者の担当する地域を選定しております。

委員： 資料1「本市におけるごみ収集業務の現状について」ですが，庸車と委託の違いは何ですか。

事務局： 庸車は委託事業者から借り上げた車両・運転手と直営の収集員で収集を行う形態です。

過去，本市が収集業務を行う際に，保有する以上の車両台数が必要となったことから，機材調達で庸車を行った経緯があり，現在に至っております。

一方委託は，車両・運転手・収集員のすべてを委託事業者で用意し，収集を行うものです。

会長： ありがとうございます。

では，続いて議題5「京都市ごみ収集業務評価推進会議」における直営及び委託事業者の評価について」です。

今回は，委員として初めて本会議に御参加いただいている方が多くおられますので，1年を通じた本会議の進め方を含め，直営と委託をどのように評価していくのかを説明いただきます。

また，本日は，京都市からごみ収集業務を受託している委託事業者の方に御出席いただいておりますので，後ほど，一言ずつ御挨拶をお願いしたいと思います。

それでは事務局から説明をお願いします。

事務局から資料の説明

事務局： ここで、今年度の評価対象である委託事業者4社から一言ずつ御挨拶をいただきたいと思えます。委員の皆様は59ページの【別紙2】「委託事業者一覧」を参考に御覧いただきながら、お聞きください。それではまず洛北運輸株式会社の福田業務部長から一言お願いいたします。

委託事業者1： 洛北運輸株式会社の福田でございます。よろしくをお願いいたします。

弊社は昭和28年に設立され、過去半世紀余り、京都市より委託を受けた大型ごみ収集を行っており、25年前からは家庭ごみの収集も行っております。

運転については、「安全・模範・ゆとりの運転」をスローガンに掲げ、安全運転に努めております。こうした取組みが評価され、国土交通省が推進する「安全性優良事業所」の認定制度である「Gマーク」を14年前から取得しております。

作業については、「親切・丁寧・きれいな作業」をモットーに、確実な収集に努め、市民の皆様に対しても、親切丁寧な対応を心がけております。

こうしたことを続けていくため、従業員に対し、安全運転・安全作業に関することやごみの分別方法などの概要についての研修を実施しております。

また、平成16年から、環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証を受けております。法令遵守のほか、燃費目標や取残しの無い収集に関する目標を立て、達成に向け、努めております。

以上です。

事務局： 続きまして、有限会社共栄産業の丹波社長、お願いいたします。

委託事業者2： 有限会社共栄産業 代表取締役の丹波と申します。よろしくをお願いいたします。

当社の設立は昭和41年で、京都市から「し尿収集業務」を受託したことが始まりです。現在は、し尿収集に加え、家庭ごみ収集及び大型ごみ収集の業務も行っております。

いずれも市民生活に必要な業務であることから、その責任を常に自覚し、日々、業務にあたっております。

安全・親切・丁寧・美しい作業を心がけ、特に安全に関しましては、社内講習等を実施し、安全運転・安全作業の能力向上を怠らないよう、繰り返し、教育しております。

安全を最優先に考えたうえで、市民の皆様にご満足いただける収集業務を行い、信頼を高めていただけるよう努力しております。

以上です。

事務局： 続きまして、安田産業株式会社の佐々生統括管理本部長よりお願いいたします。

委託事業者3： 安田産業株式会社の佐々生と申します。よろしくお願いいたします。

弊社は医療系一般廃棄物及び産業廃棄物収集を兵庫県及び滋賀県にて行っております。産業廃棄物については、リサイクルを中心とした活動を行っております。

グループ全体では約250台の車両が業務に従事しておりますが、うち、5台が京都市の家庭ごみ収集業務に従事しております。

弊社の企業理念は、「大切を守る」であり、目指すは持続可能な社会です。SDGsに積極的に取り組み、京都市祇園祭ごみゼロ大作戦への協賛や、京都産学公SDGsプロジェクトの発足などを行っております。

また、第一線で働くドライバー及び作業員においては、市民の皆様に対し、笑顔で挨拶することを心がけるよう指導しております。

なお、万一、クレームが発生した場合は、それを最大のチャンスと考え、ありがたく賜り、喜んで改善に取り組むようにしております。

以上です。

事務局： 続きまして、株式会社カンポの新免営業部長よりお願いいたします。

委託事業者4： 株式会社カンポの新免でございます。よろしくお願いいたします。

株式会社カンポは1968年に創業し、53年間、京都で事業を行っております。

家庭ごみの収集運搬担当地域は下京区、東山区、南区、伏見区、山科区、西京区でございます。

毎朝の朝礼では、市民の皆様の安全を守るため、安全運転、安全作業及び挨拶の教育を実施しております。

コロナ対策では、弊社が販売している除菌衛生水を車両の拭き取りに用いているほか、社員の家庭にも無償で配布しております。その結果、現在、社内感染者数0を継続しております。

今後も市民の皆様にご安心いただけるよう、努力してまいります。

以上です。

事務局： 資料5については、以上になります。

会長： ありがとうございます。

ただいま事務局から「京都市ごみ収集業務評価推進会議」の進め方及び直営及び委託事業者の評価について」の説明をいただきました。

この間、委託化率が年々増加し、委託事業者が担う部分も拡大してきている中で、次の議題である市民アンケートでも直営と委託を比較し、評価を行うこととしております。今年度については、先ほど御挨拶いただいた4社について、市民アンケートを実施し、評価を行っていきます。

なお、今回の会議では評価対象となる委託事業者に改めて御出席いただき、アンケート結果を踏まえた自己評価等を行っていただく予定です。

それでは議題5について、何か御意見・御質問等ございましたら、どうぞお願いいたします。

特にないようですので、次の議題に移ります。

続いては議題6「令和3年度「京都市のごみの収集業務に関するアンケート調査」について」です。

それでは事務局から説明をお願いします。

事務局から資料の説明

会 長： ありがとうございます。

ただいま事務局から「令和3年度「京都市のごみの収集業務に関するアンケート調査」について」の説明をいただきました。何か御意見・御質問等ございましたら、どうぞお願いいたします。

委 員： 資料6-3のアンケート表紙において、「本アンケート調査は、市内にお住いの方の中から無作為に選ばせていただきました」と記載されているため、全くの無作為の中で選定したように感じるが、実際には委託事業者ごとに地域を選定し、アンケートを配布していることから、「地区ごとに無作為に選ばせていただきました」というような文言に修正した方が正確なのではないでしょうか。

事務局： 御指摘のとおり、修正を行ってまいります。

委 員： 市民アンケートの質問3「あなたのお住いの行政区をお聞かせください」について、当該アンケートが直営の担当する収集先に配られたものか、委託の担当する収集先に配られたものかはどのように判断しているのでしょうか。

事務局： アンケート裏面にロゴマークを入れておりますが、直営・委託事業者各社でマークを分けることで、返信されたアンケートがどの対象者のものなのかを判断しています。

委員： 資料1の2ページ目に記載の各まち美化事務所の所管区域を見ていると、1事務所で複数の区を所管していますが、どの区からの回答なのかをどのように判断していくのでしょうか。

事務局： 今回のアンケート調査については、直営と委託事業者各社の評価を行うことを重視した調査であり、どの区からの回答かを判断する必要はありません。

【補足】 アンケートの質問3「あなたのお住いの行政区をお聞かせください」にて、どの区からの回答か判断する。

委員： 資料6-1でアンケートの配布枚数を見ると、委託事業者の配車台数に応じた配布枚数が各まち美化事務所に割振られていますが、アンケートの目的が直営と委託の比較にあり、委託事業者の区別をつけないのであれば、各まち美化事務所に均等に配ればいいのではないのでしょうか。

事務局： まず、サンプル数については、委託事業者ごとに500サンプルあれば、統計学的に、一定、信頼度の高い回答が得られるため、今回は500サンプルという数字を選ばせていただきました。

まち美化事務所に配布する枚数については、委託事業者の枚数を各500枚と均等にし、そこから各まち美化事務所に各委託事業者が何台配車されているかに基づき、割振っております。

会長： では、カンポについて、伏見まち美化事務所に配車されているにもかかわらず、アンケートの枚数が0枚となっているのはなぜなのでしょう。

事務局： 記入ミスも含めて、確認させていただきます。

【補足】 前年に令和2年度から令和4年度までの配布枚数の割振りを行った際、当該3年間で各まち美化事務所間の配布枚数が均等になるように割り振るため、伏見まち美化事務所に配車されているカンポ分を削っている。

委員： 普段、道を歩いていて、パッカー車が強引に歩道を横切る姿を見て、危ないパッカー車だなと思うこともありました。アンケートを配られた方は、アンケートの対象が京都市のパッカー車であることを理解しているのでしょうか。万一、京都市のパッカー車を認識していないのであれば、それを認識したうえで回答いただければ、より信頼性の高い回答が得られるのではないのでしょうか。

また、アンケートの回答率は例年50%未満ですが、これを向上させる施策と

して、アンケートの質問数を減らしてみてもいいでしょうか。謝礼なしで回答するにはアンケートが分厚く、少し面倒に思われるのではないのでしょうか。

50%近く回答があるため、市民の関心も高いのだろうとは思いますが、アンケートを実施する以上、回答率100%を目指すべき中で、この質問内容すべてが本当に必要なものなのでしょうか。

このままの状態では回答率が上がらないため、質問の削除等も検討してみてもいいのでしょうか。

事務局： 質問数については、この機会に質問したいという思いから数が多くなっていることが実情ですが、現在記載している質問については必要なものであるため記載しております。どこまでを省くかといった検討については、将来的な検討の中で考えていきたいと思えます。

本市のパッカー車については、御指摘のとおり、本市のパッカー車以外にも様々なものがあるため、アンケート実施当初からパッカー車の写真を別紙として付けさせていただき、本市のパッカー車の外観がどのようなものであるかをわかるようにしていますが、御指摘いただいている点は、別紙として付けるのではなく、本編の中で紹介する方がいいのではないかとということでしょうか。

委員： そうですね。アンケートを回答するにあたり、どのパッカー車が対象となるのが最初にわかった方が、間違った回答を少なくできるのではないかと思います。せめて、別紙の写真を表紙にもってくるだけでも違うのではないのでしょうか。

事務局： 御指摘のとおり、パッカー車の写真を前に持ってくる等して、誤解のないような形にすることを検討していきたいと思えます。

会長： 当該アンケートはこの手のものの中では比較的高い回答率ですが、より高い回答率を目指し、改善できるところは改善していくよう、検討が必要だと思います。

委員： 当該アンケートは平成22年度から開始されたものですか。

事務局： はい。

委員： 過去から紙ベースで実施しているのですか。

事務局： はい。

委員：今は市民向けのアンケート等でもオンラインのものが増えてきていますが、それは使いにくいのでしょうか。

事務局：御回答いただく方の年齢層を毎年お伺いしておりますが、御高齢の方が多い状況です。そうしたことを踏まえ、現在、オンライン化の実施ということは考えておりません。一定の回答率も得られているため、下手に変えるよりも、このままの形で続けさせていただきたいと考えております。

委員：わかりました。

会長：細かいことをお聞きします。アンケート8ページの質問20 選択肢7「スーパー等でのフードドライブに食品を提供している」について、フードドライブは余った食品を回収して再分配する取組みですが、フードドライブという文言についての説明がどこかにあった方がいいように思います。この言葉の意味がよくわからない方もいらっしゃるのではないかと思いますので、ごみちゃんが説明する形で入れてみてはどうでしょうか。

事務局：御指摘を踏まえて、より分かりやすい形に修正いたします。

会長：今後はこの紙ベースでのアンケートを基本にしつつ、ほかの委員からも指摘のあったインターネット等の活用を行い、もう少し若い世代の意識をとらえるような仕組みや試みをそろそろ検討してもいいのかもしれないかもしれません。

また、項目を絞って簡単なアンケートにするということを考えていってもいいのかもしれません。

会長：本日は、この評価推進会議が今後どのようなスケジュールで行われていくのか等、かなり盛沢山な内容であったかと思います。工場見学等も行いましたが、何か感想等ないでしょうか。

では私から感想を述べさせていただきます。第一工場がまだあった頃に、横大路学園を見学させていただきましたが、その際に、これから第二工場が作られるといった話を伺っていました。環境・教育に配慮した新しい施設ができるんだなと思いました。本日も夏休みで、自由研究のお子様がたくさんいらっしゃったと思いますが、このように活用されていることは素晴らしいことだと思います。

また、何よりも、本市取組の中でごみ量がピーク時の半分以下になったということについて、もちろんコロナ禍でのことではありますが、大きな削減を達成で

きたことは素晴らしく、それによって、クリーンセンターの数も減らせ、収集も減らすことができ、午前収集ができるようになりました。市民の皆様に御理解、御協力いただいた結果、サービスも向上し、また、人件費も減らすことができました。

委員： 私は今、二十歳ですが、ちょうど10年前の小学4年生の頃、地元のごみ収集センターを見学しました。その施設に比べると、京都市の施設の規模は大きいように感じます。私の地元では行政指定のごみ袋がないため、燃やすごみとペットボトル、プラスチックが一緒に出されてしまいますが、京都市では処理をする際のことを考え、ごみ袋を作る等、市民の方々が分別しやすい状況を作り出しているように思います。

近年では、分別されずに捨てられたゲーム機などからの火災が発生してしまう可能性もあるため、ごみの分別は今後益々重要になると考えます。

会長： これで本日予定していた議題は全て終了いたしました。事務局に進行をお返ししたいと思います。

○閉会

○環境政策局循環型社会推進部長挨拶

部長： 本日はこのような雨の中、また、お盆の時期にも関わらず、委員の皆様及び委託事業者の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日の会議の中でも御説明させていただき、また、中井会長のお話の中でも触れていただきましたが、ごみ量39万tを目指すため、長い期間をかけて取組を続けてまいり、昨年度、コロナ禍の影響もありますが、39万tの目標を達成し、ピーク時の半量以下までごみ量を減量することができました。これは市民の皆様、事業者の皆様のおかげであると考えております。

先ほど、有料指定袋のお話もございましたが、市民の皆様に御協力いただき、有料指定袋を御活用いただいたことで、ごみの減量が進んだ結果であると考えております。改めてこの場をお借りし、感謝申し上げます。

今後につきましては、コロナ禍の状況も見据えながら、本日も御説明差し上げた新しい計画の中で、今まで推進してきた上流でごみを減らし、再使用する「2R」から、さらに資源物を分別してリサイクルにまわすといった取組みが重要になってきます。それに伴い、今後、製品プラスチックを分別していく動きも、新しく、国の方で出ており、本市でも社会実験を行っているところです。

また、市民の皆様の身近なところで、まち美化事務所の職員が公園等に出向き、資源物を回収する移動式拠点回収という取組みも拡充を図っているところです。資源物の回収については、様々な形で、力を入れて進めて参ります。

それから、何を言いましても燃やすごみ等の定期収集が公衆衛生の維持にとっては非常に重要であります。本日の会議の中でも御説明したように、収集業務の3分の2は委託事業者をお願いしている状況です。京都市のパッカー車と同じ外装の車両を使用いただき、本市の直営と同じ気持ちを持って作業を行っていただいております。当該会議でも委託事業者の個別の評価を行います。今後も委託事業者と一緒に公衆衛生の維持の根幹を担っていき、更なる市民サービスの向上に努めていきたいと考えております。

本日はこちらからの説明が中心でしたが、次回3月に予定している会議では、今回御説明したアンケートの結果を踏まえて、普段のごみ出しの中でこんなことに困っている等、忌憚ない御意見をいただければ幸いです。

本日は誠にありがとうございました。

事務局： 本日は長時間、御審議いただきありがとうございました。アンケートの記載につきましては、また会長と御相談をいたしまして修正をしていきたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。